

第10回 BELCA賞ベストリフォーム部門表彰物件

洲本市立図書館

所在地：兵庫県洲本市塩屋1-1-8

用途：図書館（改修後）
紡績工場（改修前）

竣工：1909年

改修：1998年

所有者：洲本市

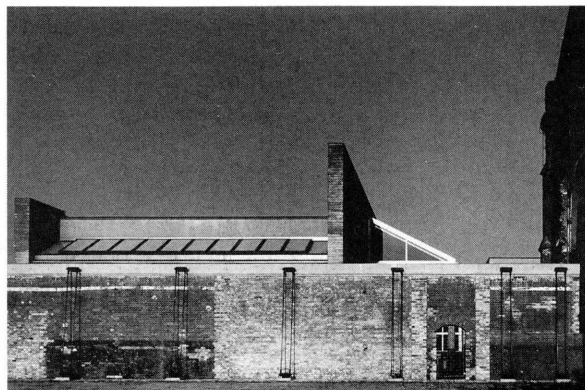
改修設計者：有限会社 鬼頭梓建築設計事務所

改修施工者：株式会社 竹中工務店

株式会社 柴田工務店

株式会社 四電工

株式会社 中野設備



当図書館は明治時代後期に造られた紡績工場の遺構のうち、その外壁を保存利用しながら新たな市の図書館を構築したものである。洲本港に近接するこの界隈は旧工場を再利用し、保存・整備されている美術館やレストラン等とともに市の新たな文化ゾーンとして展開されている地域である。

今回の計画で残された古いレンガ棟はその一部の外壁やレンガの再利用と云うことであり、建築架構の大部分を利用している訳ではないが逆に一部の利用でありながら本来の煉瓦造が持つ最もふさわしい姿での再生が見事であり、更に隅々に迄わたっている設計者の高い力量が感じられ新しい形での復元、イメージ保存の成功例として評価された。

企画から設計に関しては、いち早く市民参加による開かれた委員会を立ち上げ、市民のための使い易い図書館を目指し、公共図書館の本質を検討し実施に反映させた。この委員会は施工段階迄引続き開催され、市民との協働態勢のもとに市民の図書館の完成をみたといえる。

図書館としての復元というもう一つの制約の中でもわかり易く、使い易い機能を持ち、二つの中庭を中心としたプランニングも明快で気持ち良い。特に質感のある厚いレンガ壁に穿たれた児童エリアの正方形の開口部やブラウジングコーナーと新聞雑誌コーナーの間の開口部は内外の空間を継ぐにふさわしい魅力的な役割を果たしている。

再生煉瓦に最も呼応するコンクリートの素地仕上げや珪藻土の塗り壁を選択した内外の空間は見事に調和している。9万本に及ぶ再利用レンガの効果も高く、時代をつなぐバランス感覚の良さを感じる。

構造的にも施工的にも様々な工夫が見受けられる。特に既存のレンガ壁の補強工事、RC梁での挟み込み作業、タイロッドによる繋ぎ作業、打放しコンクリートの精度確保の為の様々な作業等は今失われつつある職人の強い心意気すら感じる事が出来る。

建築設備的には全く新築であるが、省エネに十分配慮した設計・施工を行っており、特に空調設備は館内各室の用途や規模によって使い分け、きめ細かな制御が出来るよう配慮されている。又維持保全計画も各部位毎に綿密に計画されており、多くの市民に開放される図書館として、安全で快適な空間を提供しようとする意気込みが感じられ評価できる。

「ここにいると心地よく時間が経過し、リフレッシュ出来る」と云う市民の言葉と、飛躍的な利用者の増大がこの計画の出来栄えを物語っている。